

平成19年度 3館合同企画展

川の上の近代

川蒸気船とその時代

望河憧憬

～近世近代移行期の関東河岸～

江東区中川船番所資料館

4月28日(土)～6月17日(日)



小名木川を行く外輪蒸気船 明治13年 江東区中川船番所資料館蔵

蒸気船・通運丸が行く

物流博物館

4月28日(土)～6月17日(日)



蒸気船・通運丸 明治時代 物流博物館蔵

Kioroshi(木下)の蒸気船 銚港丸

吉岡まちかど博物館

10月21日(日) / 28日(日) / 11月3日(土)

11月 4日(日) / 11日(日) / 18日(日)

※上記の6日間のみ開館



第4銚港丸の外輪カバー部分 明治時代 吉岡家蔵



通運丸や多くの和船が行き交う小名木川「小名木川の眺望」『新撰東京名所』明治42年 物流博物館蔵

〈相互協力事業〉

明治の私鉄と産業発展

—日本鉄道+甲武鉄道+総武鉄道—

旧新橋停車場 鉄道歴史展示室

会期：開催中～3月25日(日)



国分寺停車場の図(山本松谷画)個人蔵



日本財団
The Nippon Foundation

助成事業



ありがとう競艇

川の上の近代 木下川蒸気船とその時代

開催にあたって

近世を通じ河川交通の発達をみた関東平野では、明治以降、従来の和船に加え民間の蒸気船が就航し、貨客を運ぶために活躍していました。

今回の合同展では、関東の蒸気船による河川交通について、江東区中川船番所資料館、物流博物館、吉岡まちかど博物館の3館が合同で事業を企画し、各館が異なる視点から各々の展示を構成することにより、近代河川交通の一側面を明らかにしていきます。

蒸気船・通運丸が行く 物流博物館

4月28日(土)～6月17日(日)

今からちょうど130年前の明治10年(1877)5月1日、内国通運会社の通運丸という外輪蒸気船が、東京・深川扇橋と栃木県生井村(現在の栃木県小山市)の間に就航しました。内国通運会社は江戸時代以来の飛脚問屋が集まって明治5年(1872)に設立した運輸会社で、今日の日本通運の前身に当たります。

通運丸は第1号以降続々と建造され、航路も江戸川・利根川・霞ヶ浦・北浦など各方面に拡大、大正期に経営主体が変わった後も船名は引き継がれ、関東地方を代表する蒸気船として昭和初期に至るまで貨客の輸送に活躍しました。この間にこの地域で使用された「通運丸」という名称の船は、船体数で80隻近くに及ぶと考えられます。

今回の展示では、この通運丸の就航から終焉に至る過程を紹介するとともに、川蒸気船が近代の交通システムに果たした役割と意味を探っていきます。



潮来付近を航行する通運丸 武間達也氏蔵



両国橋際の通運丸発着所 明治時代 物流博物館蔵



通運丸開業広告 明治10年 物流博物館蔵

〈相互協力事業〉当時の交通の全体像を知る上で本展とあわせ是非ご観覧ください。

「明治の私鉄と産業発展—日本鉄道+甲武鉄道+総武鉄道—」

旧新橋停車場 鉄道歴史展示室

開催中～3月25日(日) 所在地：東京都港区東新橋1-5-3 / TEL03-3572-1872

1906(明治39)年、鉄道国有法が成立し、同年10月から翌年10月にかけて主要私鉄17社が国有化されました。それまでの日本の鉄道は営業キロをみると、私設鉄道が官設鉄道を上回っていました。しかし、この国有化政策により、官設鉄道が日本の鉄道の約90パーセントを占めることになったのです。

本展では1906(明治39)年に国有化された私鉄のうち、首都・東京を起点としていた日本鉄道、甲武鉄道、総武鉄道、またその支線的な役割を果たしていた両毛鉄道、青梅鉄道を取り上げ、併せて鉄道と産業との関わりもご紹介します。

※なお、本展の内容を紹介する講座を5月26日(土)に行います。(詳しくは裏面参照)



日本鉄道線路平面図及断面図(部分拡大) 明治27、28年頃 交通博物館蔵

Kioroshi(木下)の蒸気船 銚港丸 吉岡まちかど博物館

10月21日(日)・10月28日(日)・11月3日(土)・11月4日(日)
11月11日(日)・11月18日(日)※以上の6日間のみ開館

銚港丸は、明治12年(1879)から明治35年(1902)にかけて木下・銚子間や、東京・銚子間の直行便として活躍した木下の吉岡家の蒸気船で、第1から第5まで5隻あり、通運丸、銚子丸と共に代表的な川蒸気船です。

銚港丸の誕生から終焉は、利根川水運と共にあった明治期の木下の盛衰をも象徴しています。本企画展では、銚港丸を中心に信義丸、利根丸等木下の蒸気船について展示を行うほか、東京と下利根川流域を結ぶ交通結節点として繁栄した木下の一端をあわせて紹介します。

※吉岡まちかど博物館の建物は、銚港丸が活躍していた明治24年(1891)に建てられた吉岡家の重厚な土蔵です。平成16年10月、木下まち育て塾と東京電機大学の協働により修復、再生され、銚港丸を語る上で最もふさわしい場所となっています。なお、当館は木下まち育て塾が運営しています。

主催：木下まち育て塾
後援：印西市教育委員会



銚子汽船木下支店(吉岡家)の旗 明治時代 吉岡家蔵



内国通運・蟻殻町出張所前の隅田川に停泊する第4、第5銚港丸 明治時代 吉岡家蔵



市民交流の場となっている 吉岡まちかど博物館

望河憧憬 ～近世近代移行期の関東河岸～

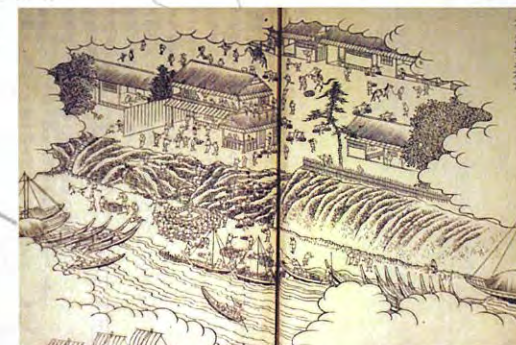
江東区中川船番所資料館

4月28日(土)～6月17日(日)

運河・堀割に囲まれた江東地域は、江戸時代以降北関東・東北方面から江戸に入る玄関口として発展を遂げました。小名木川を抜け、新川を経由して江戸川、利根川に入る航路は、多くの船で賑わったことでしょう。そして、関東各地の河岸は江戸と水上交通によって結ばれ、人やものが交わる場所として重要な位置を占めることとなります。

このような関東の水上交通にとって大きな転機となったのが川蒸気船でした。新たな交通手段の登場は、河岸やそこに携わる人たちに大きな影響を与えました。今回の展示では、近世近代移行期の関東水上交通に焦点をあて、川蒸気船や鉄道などの交通手段の登場によって河岸や地域の人々がどのように対応をしていったのかを紹介していきます。

主催：江東区地域振興会
協力：江東区教育委員会



「布川魚市之図」『利根川図志』江戸時代 江東区中川船番所資料館蔵



小名木川を行く通運丸「東京小名木川 日本精製糖株式会社」 明治時代 江東区中川船番所資料館蔵

イベント情報



■通運丸疑似体験クルーズ

通運丸の航行した両国～小名木川を屋形船でクルーズ（解説付き）
 日時：5月19日（土）午前9時 品川駅集合
 午後1時頃 中川船番所資料館にて解散
 行程：品川～両国橋～小名木川～荒川ロックゲート（船内にて昼食）
 ※希望者には中川船番所資料館の見学・展示解説あり
 定員：60名
 参加費：5,250円（昼食代込み・入館料は別料金）※雨天決行
 申込方法：4月10日（火）より受付開始。5月7日（月）必着。往復はがきに住所・氏名・電話番号を記入の上、中川船番所資料館宛に郵送。はがき1枚に付き2名まで申込み可。（応募者多数の場合は抽選となります。当選の方には5月12日まではがきでお知らせします）

■合同展集中講座「近代・関東の河川交通と鉄道」

合同展各館の展示及び「旧新橋駅停車場 鉄道歴史展示室」の企画展「明治の私鉄と産業発展」の展示内容に関する講座です。
 日時：5月26日（土）午後1時半～5時
 鉄道歴史展示室・馬上弥生／物流博物館・玉井幹司
 6月2日（土）午後1時半～5時
 木下まち育て塾・村越博茂／江東区教育委員会・龍澤潤
 場所：物流博物館
 定員：各回30名
 申込み方法：5月2日（水）より受付開始。物流博物館へ電話申込。

■合同企画展 記念講演会

「川の上の近代を考える－関東の蒸気船交通をめぐって」
 日時：6月16日（土）午前10時～午後5時
 第1部 蒸気船と関東の近代水上交通
 山本 鉦太郎氏・内田 龍哉氏
 第2部 近世・近代の水上交通をめぐる諸環境
 青木 敏雄氏・鈴木 勇一郎氏
 第3部 川の上の近代と現在－江東区をめぐる－
 斎藤 富三氏・龍澤 潤
 場所：江東区東大島文化センター
 ※来聴自由

■「水の駅木下」市民ウォーク

往時の面影を残す、吉岡まちかど博物館をはじめとする木下・六軒の蔵・町屋、そして水辺を案内人と歩きます。
 日時：11月上旬（予定）
 参加方法等：詳細後日発表

■木下まち育て塾 市民公開講座（2）

吉岡まちかど博物館特別企画展記念講演会
 講師：山本鉦太郎氏（旅行作家、『川蒸気通運丸物語』著者）
 演題：「大利根を快走する外輪蒸気船」
 日時：11月中旬（予定）
 場所：印西市中央公民館（JR成田線木下駅北口下車徒歩5分）
 参加方法等：詳細後日発表

■木下まち育て塾 市民公開講座（1）

「利根川文化研究会」による研究報告会を木下で開催します。
 日時：10月下旬（予定）
 場所：印西市中央公民館（JR成田線木下駅北口下車徒歩5分）
 参加方法等：詳細後日発表

■外輪蒸気船のペーパークラフトを販売します。

日時：展示期間中
 場所：中川船番所資料館、物流博物館、吉岡まちかど博物館
 材料費：200円

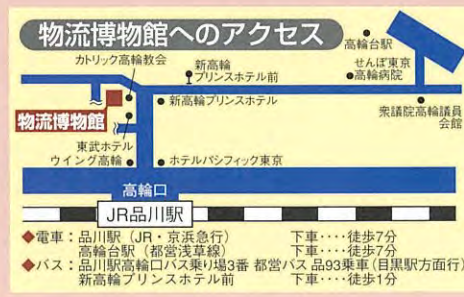
※講演者及び演題については変更の可能性があります。

各館のご案内

江東区中川船番所資料館
 観覧料：大人200（150）円
 小・中学生50（30）円
 ※（ ）内は20名以上
 障害者手帳などを提示された方
 及び介護者1名は割引となります。
 観覧時間：午前9時30分～午後5時まで
 （入館は4時30分まで）
 休館日：毎週月曜日（4月30日は開館）
 ・5月1日
 所在地：〒136-0072 江東区大島9-1-15
 電話：03-3636-9091
 URL：http://www.kcf.or.jp/funaban/
 交通機関：都営新宿線東大島駅
 「大島口」下車 徒歩5分



物流博物館
 観覧料：大人200（100）円／
 小・中学生100（50）円
 ※（ ）内は20名以上
 小中学生は土曜日無料
 開館時間：午前10時～午後5時
 （入館は4時30分まで）
 休館日：毎週月曜日（4月30日は開館）
 ・5月22日
 所在地：〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15
 電話：03-3280-1616
 URL：http://www.lmuse.or.jp/
 交通機関：JR品川駅下車高輪口より 徒歩7分
 都営浅草線高輪台駅下車 徒歩7分



吉岡まちかど博物館
 観覧料：無料
 開館日：10月21日（日）/28日（日）
 11月3日（土）/4日（日）
 11月11日（日）/18日（日）
 開館時間：午前10時～午後4時まで
 休館日：上記の開館日以外は原則休館
 所在地：〒270-1326
 千葉県印西市木下1484番地
 問合せ先：木下まち育て塾（伊藤 0476-42-8077）
 又は物流博物館（03-3280-1616）
 交通機関：JR成田線木下駅北口下車徒歩15分
 URL：http://hw001.gate01.com/hiro-murakoshi/

